



大津・SDGs協働支援チャリティプロジェクト 報告書 2023



ご挨拶

1. 2023 年度のプロジェクトの成果

2. プロジェクトの目的と概要

3. 「平和」や「公正な社会づくり」を進める市民公益活動団体への支援事業

4. 事業成果・SDGs を伝える（啓発活動）

- ・ SDGs を育む（人材育成活動）
- ・ SDGs で集う（交流活動）

5. 事後評価アンケート

6. ご協賛企業、団体

大津市長 佐藤 健司

この度、「大津・SDGs協働支援チャリティプロジェクト」が6周年を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。

近年、新型コロナウイルス感染症の拡大や物価の高騰など、私たちの生活は大きく変化し、人とのつながりの尊さを改めて実感する機会となりました。

昨年度は、様々な活動の再開により、市民の皆様と共に歩む一歩一歩が特に重要だと改めて認識した一年となりました。今後も、ポストコロナ社会において市民の皆様が暮らしやすく、持続可能なまちづくりを進め、「夢があふれるまち大津」の実現に向け、市民の皆様と共により良い未来に向けて歩みを進めていきます。

このプロジェクトを通じて築かれた絆や繋がりや皆さまの尽力が、より平和で公正な社会を築くための基盤となり、協働のまちづくりに貢献することを願います。また、その結びつきが、持続可能な開発目標である「誰一人として取り残さない」社会を実現するための力強い一歩になることを信じています。

皆様におかれましては、今後ともご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



大津市市民部長 田中 鉄也

本市では、社会の多様性や複雑性が増す中で、市民の皆さんが積極的に地域社会の発展に参加できるまちづくりを目指しており、地域の皆様との協力や連携を大切にし、取り組んでいるところです。

現在、「大津市協働のまちづくり推進計画」に基づき、市民や市民団体、事業者、そして大学が連携し、地域課題を包括的に解決するための体制づくりを進めており、また、市民活動センターにおけるまちづくりの中間支援機能の向上にも力を入れています。

大津市市民活動センターにおいて取り組まれた「大津・SDGs 協働支援チャリティプロジェクト」は地域の持続的な発展に資するものであり、今年度のテーマは「平和と公平な社会」でした。多様な主体が共通の課題に取り組み、協力して事業を推進することで、地域社会全体の連携強化と持続可能なネットワークの形成が期待されます。

今回の「大津・SDGs 協働支援チャリティプロジェクト 2023」への参加に際し、市民団体、事業者、そして大学からのご協力に深く感謝申し上げます。皆様の交流と連携が、今後ますます効果的で持続可能なまちづくりを促進し、地域社会の発展につながることを心より祈念いたします。

1 2023年度のプロジェクトの成果

四者協働の推進

多くの市民公益活動団体、企業、大学、大津市、滋賀県ならびに各種メディア等からご協賛やご協力いただき四者協働により事業を展開しました。



SDGs に対する啓発・人材育成・交流活動の推進

2023年度はSDGs17の目標のうち、目標16の「平和と公正を全ての人に」をテーマとして、「啓発・普及活動」「人材育成活動」「交流活動」に取り組みました。



コミュニティファンドと寄付支援・資源提供の体制づくり

大津市で「平和」や「公正な社会づくり」を進める市民公益活動団体を寄付先として選定し、チャリティ事業と人材や体験プログラムのマッチングなどの支援を行いました。

チャリティでは多くの市民や協賛企業・団体、大学が資源を持ち寄って運営し、2023年度末で64万7900円集まりました。

寄付金額の推移

2019年	27万4,396円
2020年	44万4,000円
2021年	42万0,000円
2022年	71万6,214円
2023年	64万7,900円



2-1. 大津・SDGs 協働支援チャリティプロジェクトの背景

大津市では、2011年に施行した『大津市「結の湖都」協働のまちづくり推進条例』に基づき、三者協働によるまちづくりを推進しています。大津市市民活動センターは、市民公益活動の推進により地域社会に貢献することを目的とした公共施設です。近年、地域社会が抱える課題はますます増大し、市民公益活動団体はもとより、様々なセクターの協働が求められています。

2015年9月、国連に加盟する193か国が2016年から2030年の15年間で達成するためにSDGs(持続可能な開発目標)を採択しました。SDGsは17の目標と169のターゲットで構成されます。これらの目標やターゲットは、市民公益活動と深く関わり、特定非営利活動促進法に記された20の活動分野ともよく合致します。

当センターでは、2018年度から、SDGsをテーマとして、市民、行政、企業、大学の四者協働による地域貢献に取り組んできました。

2-2. プロジェクトの構成と展開

本プロジェクトは、「啓発・普及活動」「人材育成活動」「交流活動」の3事業を構成されています(図1)。

初年度の2018年度は「SDGs とは何か」をテーマにフェスタや講座などの事業を開催し、子どもから大人まで広く啓発する活動に重点を置きました。2019年度からは毎年SDGsの17の目標からテーマを選び、その目標について講座やフォーラムを開催して理解を深めることに努めました。

また2019年度からは「協働支援型寄付事業」として、各年度の目標に関連するテーマを設けて公募採択した市民公益活動に対して、四者協働によりチャリティ事業を展開しました。2020年度からはチャリティに加え、人材や体験プログラムなど資源のマッチング事業を進めてきています。(図2)

図1 3つの事業構成

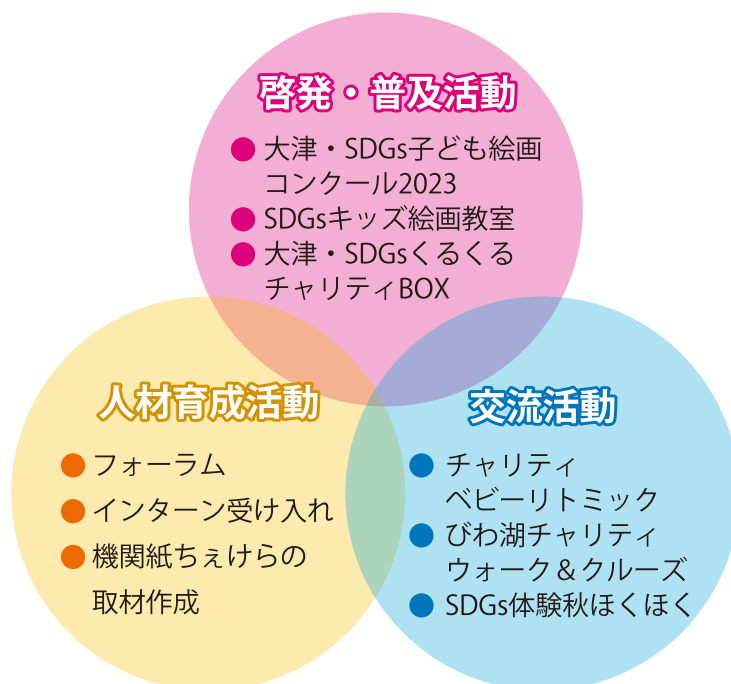
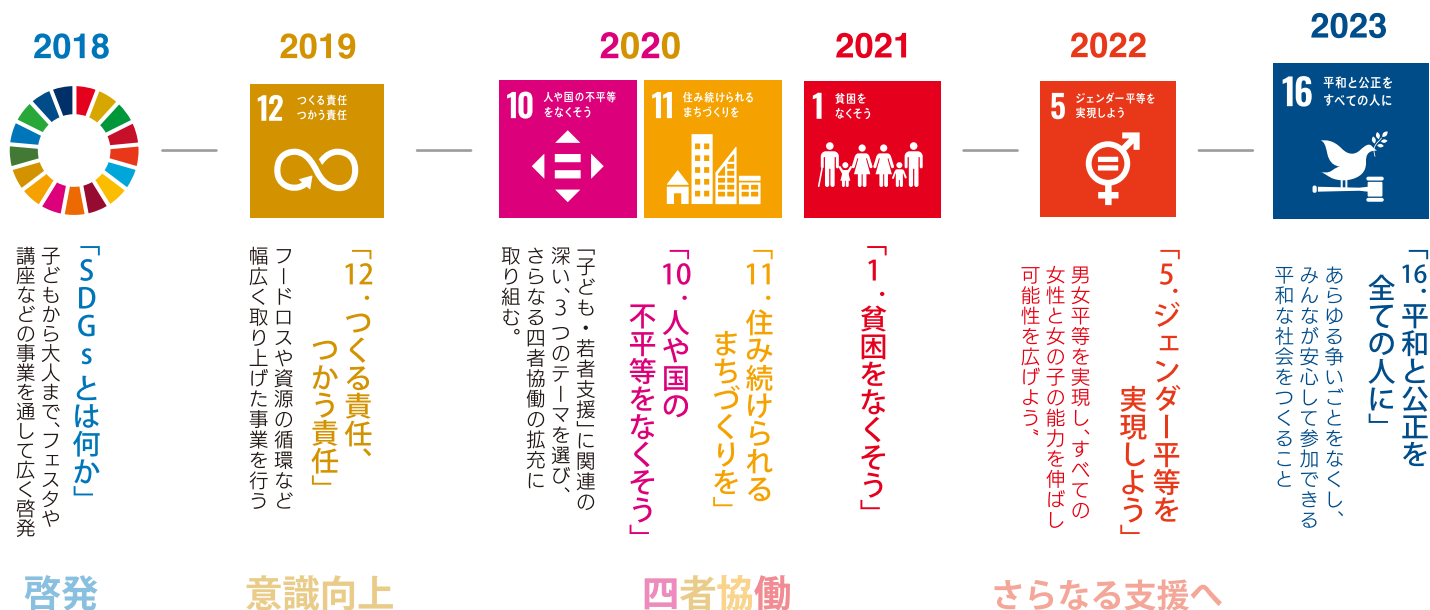


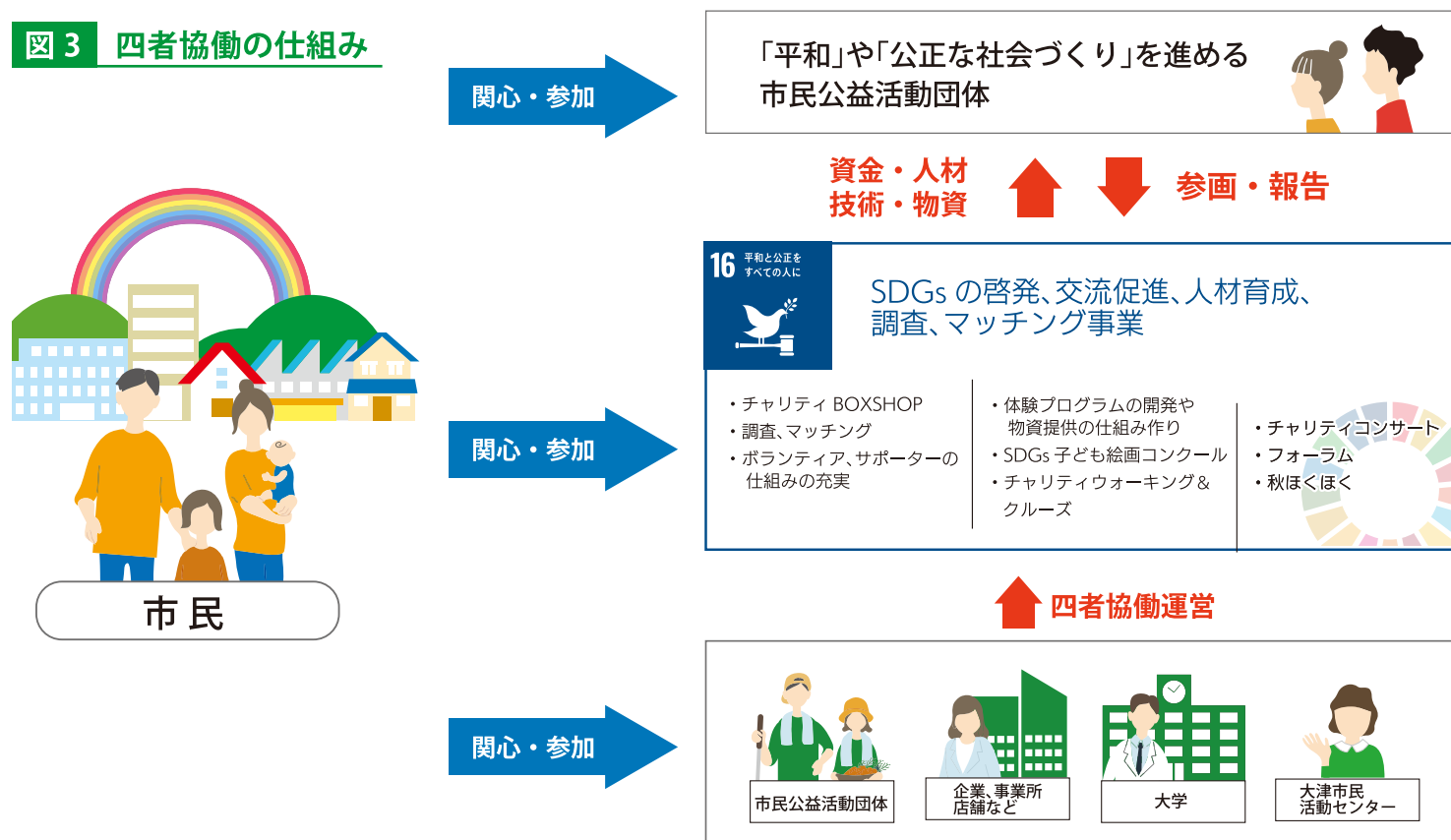
図2 これまでのプロジェクトのあゆみ



2-3. 四者協働(市民、行政、企業、大学)の仕組み

本プロジェクトは、市民、行政、企業、大学の四者協働により進めています。市民や市民活動団体、大学はボランティアや団体の持つ技術、企業は資金や生産物、サービスなど、それぞれが有する資源を持ち寄り、フォーラムやイベントなどを開催します。市民はこれらの事業に参加し、その参加費の経費を除く全てがチャリティとなります。(図3)

図3 四者協働の仕組み



3-1. 大津市で「平和」や「公正な社会づくり」を進める事業への支援

2023年度は、SDGsの目標の中で、「GOAL.16.平和と公正を全ての人に」を取り上げました。近年、世界的に社会状況が不安定になってきました。日本では戦争の記憶や平和の大切さを継承することが非常に重要になってきています。他方で海外からの労働者が増えてくるなど、さまざまなルーツを持つ人々との真の共生が求められています。

本プロジェクトでは、2023年6月に、大津市内で市民公益活動団体による「平和」や「公正な社会づくり」を進める事業を公募し、8月に審査会を開催しました。その結果、「みんな「オトナリさん」委員会」と「大津・子ども歴史探検実行委員会」の2団体の事業が採択されました。

支援先団体選定の審査会の様子



六年間の事業の中で、複数団体による委員会が採択されるのは初めてだったため、審査員からは各団体の得意分野を活かした活動への期待が寄せられました。

審査員と採択団体代表の記念撮影。



3-2. チャリティ支援事業

①みんな「オトナリさん」委員会

みんなオトナリさん おはなし会

舞台「キャンパーの上演」

大津は2022年度の外国人住民が4751人で全人口の1.4%を占め、人口として増加傾向にあります。内訳はアジア圏が79.3%を占めますが、ブラジルや米国、インドなど多様な国籍の方が住んでいます。

今後も国際化が進む中で、さまざまな国や民族の歴史や現状を知り、相互理解がますます重要になってきています。このプロジェクトでは、お話会や演劇イベントを通して、世界中の市民が隣人として「オトナリさん」と助け合える公正な社会づくりに貢献していきます。



オーガニック&つながるマーケットしがで、海外の方や、在日外国人の子どもを支援する方との交流会を出展します。



滋賀県野洲市在住の鄭末鮮さん（90歳）が第三次大阪大空襲で体験した内容に基づく演劇を開催します。

②大津・子ども歴史探検実行委員会

映像作家 中島さんと一緒に！～キッズフォトさんぽ～

大津は東京や大阪に比べて大きな空襲は受けていないと言われますが、軍港や軍需工場があり、終戦間近には模擬原爆の投下による東レの爆撃がありました。戦争について知っている方の高齢化が進む中、子どもや若者世代に体験を伝えていく機会が少なくなりつつあります。

この事業では、まち歩きや紙芝居などの体験で戦前戦後の大津の歴史を伝え、平和な社会を作っていきたいと考えています。



写真と文章の詩人・中島省三さんと、普段は入られないような場所で大津を探検しながらフィルムカメラの撮影を体験します。



4 事業成果・SDGs を伝える（啓発活動）

4-1. 大津・SDGs 子ども・絵画コンクール 2023

・表彰式 12/3 スカイプラザ浜大津
(60 作品応募 受賞者 12 名)

今年度の SDGs のテーマである「GOAL.16. 平和と公正を全ての人に」を考える「ケンカや争いをなくすために何ができるだろう」を題材とした作品を、大津市内の小学校3年生から中学生を対象に募集しました。60 点の応募作品より大賞(市長賞)1点と協賛企業 11 社からの特別賞を選定し、12 月 3 日の表彰式で賞状と副賞を授与しました。

また応募作品を大津市市民活動センターや平和堂石山店、滋賀銀行大津駅前支店、大津市役所で展示しました。



スカイプラザ浜大津にて絵画授賞式の様子



SDGs子ども絵画コンクール2023大賞作品

SDGs 子ども絵画コンクール 2023 大賞

「やさしさと思いやりをもちよって」

受賞した子どもからのメッセージ

すべての人がぐらしやすいまちや未来にするために、世界中の人々が話し合い、やさしさや思いやりをもちよって、たくさん問題をかいけつできたらいいな。

4-2.SDGs キッズ絵画教室

・7/23・8/27 大津市民活動センター
(参加者 41 名)

クイズ形式でSDGsについて学んだ後、水彩画の先生に表現技法を学びながら、SDGsをテーマに絵を描きました。



自由な発想で筆以外にも楽しくお絵描き

4-3. 大津・SDGs くるくるチャリティBOX

・(協賛企業等計 5 店舗に設置)

市民公益活動団体が生産したお菓子・農産物・文具・小物等を企業や団体のオフィスなどで社員向けに頒布し、価格の10%を寄付しました。



事業所などに提供している、くるくるチャリティBOX

SDGs を育む（人材育成活動）

4-4. 上映会「荒野に希望の灯をともし」

（12/3 スカイプラザ浜大津 参加者 60 名）

戦火のアフガニスタンで活動した医師・中村哲氏を21年間継続的に記録したドキュメンタリーを上映しました。大津では初めての上映で、多くの方から好評を得ました。



4-5.SDGs フォーラム「武力で平和は守れない」

（12/3 スカイプラザ浜大津 参加者 80 名）

中村哲氏の意味を継ぎ活動するペシャワール会の藤田千代子氏による基調講演を行いました。大津はもとより、他府県からも多くの参加があり、質疑応答も大いに盛り上がりました。



4-6. インターンの学生によるミニコミ誌取材

滋賀短期大学の学生が、支援先団体の活動について、ミニコミ誌のための取材を行いました。事前準備から取材まで、とても真摯に取り組まれていました。



4-7. 「平和」や「公正な社会づくり」を進める大津市内の市民公益活動団体の取り組みについての情報発信

当センターの機関紙「ちえけら」にて、支援先団体の取り組みなどについて特集を組み、情報発信を行いました。



参加者の声

上映会

- ・ 平和とは、武器など争うものではなく、身近な命を大切に
する事から、自然と共に生きる事・・・など中村Drの考え方
や体験で得たことに感動しました。

フォーラム

- ・ アフガニスタンの現地の状況を直接聞く事ができて良かった。
ペシャワール会の活動、今後も継続してください。

4-8. 音楽絵本でリトミック

(8/1,12/2,2/3,3/3
大津市市民活動センター)

大津リトミックグループ協力のもと、ピアノの音に合わせて会場を動き回ったり、プロジェクターで絵本を大画面に写した絵本の読み聞かせを楽しみました。



4-9. キッズスポーツ教室

(9/10 大津市市民活動センター
参加者 45 名)

アスリートスポーツクラブ協力のもと、飛んだり跳ねたり、体操をしたり、楽しく体を動かしました。

4-10. チャリティコンサート 猫ねこネコ
～ねこふんじゃったによる9つの物語～

(10/1 スカイプラザ浜大津 参加者 75 名)

地元滋賀県はもとより、世界で活躍されているフルートオーケストラ集団「湖笛の会」による12本のフルートのみで構成されるチャリティコンサートを開催しました。

フルートの種類や音などについての解説も交えた楽しい内容で猫をテーマにした音楽が大変好評でした。



4-11.SDGs 体験 秋ほくほく

(11/12 大津市市民活動センター
6 教室 参加者 230 名)

市民活動団体や事業所の協力により、段ボールプレイパーク、子ども体操教室、木工教室、水彩画教室、琉球国祭太鼓体験、SDGs教室を開催しました。



4-12. びわ湖チャリティウォーク&クルーズ

(11/12 JR 大津駅から大津港～琵琶湖クルーズ
参加者 140 名)

JR大津駅からSDGsに関するクイズを楽しみながら大津港までウォーキング、その後琵琶湖汽船のミシガンの就航を楽しみました。クイズを全問正解すると協賛企業より提供いただいた景品がもらえ、子どもたちに大好評でした。



参加者の声

SDGs体験 秋ほくほく

- ・我が子が平和で生きやすい未来がきますように。
- ・ものづくりはやっぱり楽しいです。来年も参加したいです。

びわ湖チャリティウォーク&クルーズ

- ・いい季節に家族との楽しい思い出ができました。
- ・気楽に楽しめて、子どもも大喜びでとても良かったです。

5 本プロジェクトの事後評価アンケート

本事業に参加・協賛頂いた市民公益活動団体（サポーターを含む）、企業、行政を対象に事後評価を実施しました。市民公益活動団体からは9、企業からは17、大学からは1団体より回答を得ました。

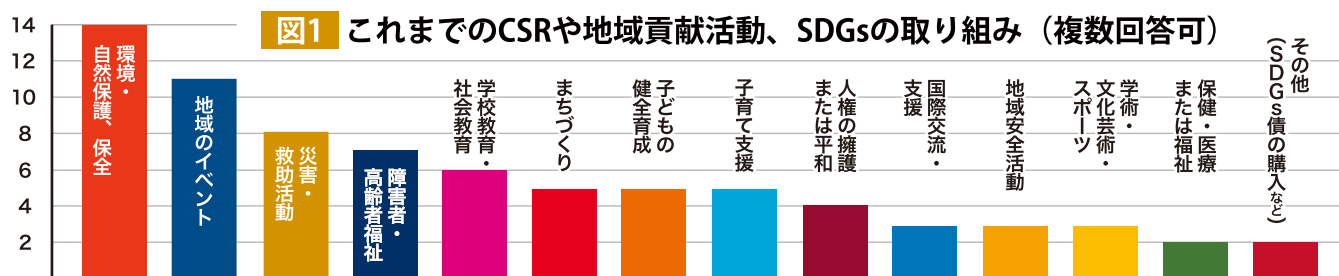
5-1. 団体・組織の種別と地域貢献等の取り組み状況

（1）市民公益活動団体、サポーターの現状

本調査に回答した9の市民公益活動団体およびサポーター市民に「今年度、本事業「大津・SDGs協働支援チャリティプロジェクト2023」以外に、SDGsをテーマにした活動に取り組まれましたか？」と尋ねたところ、「いいえ」が7、「はい」が2となった。市民公益活動団体やサポーターの本プロジェクト以外のSDGsへの取り組みは2割となった。

（2）企業のSDGsや地域貢献等への取り組み

本調査に回答した17の企業及び1大学が、これまで取り組んだSDGsやCSR、地域貢献活動の分野を見ると、「環境・自然保護・保全」が14、「地域のイベント」が11事業所で多い。（図1参照）本事業以外にSDGsに取り組んだ事業や取り組み、協賛等の有無については「ある」「ない」とともに9事業所であった。

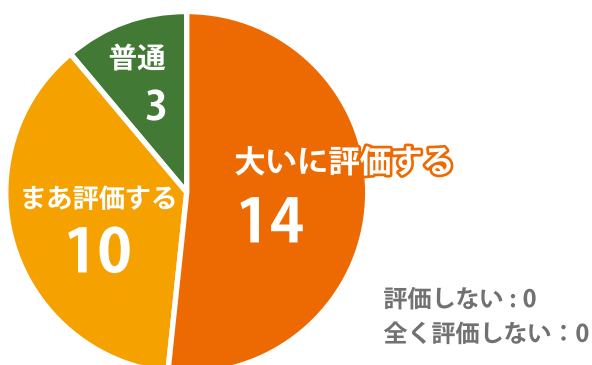


5-2. 本プロジェクトのテーマや内容には 85% 以上の市民公益活動団体・個人や企業が高評価

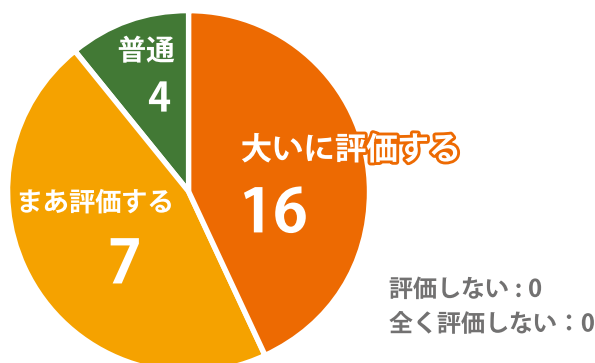
本調査に回答した9の市民公益活動団体およびサポーター市民、17の企業及び1大学に対して、今年度のプロジェクトやチャリティの成果について図2の4項目について尋ねたところすべての項目について85%以上の団体が、「大いに評価する」「まあ評価する」と回答した。自由記述では、「平和と多文化共生の取り組みへの共感」「幅広い年代の市民が参加できるイベントで良い」などの声が寄せられた。

図2 今年度のプロジェクトやチャリティの成果について

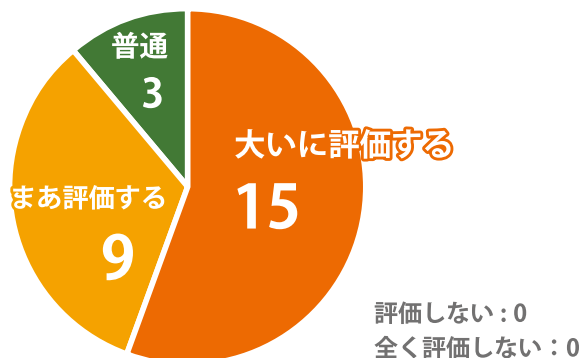
① 四者協働によりSDGsに取り組んだ



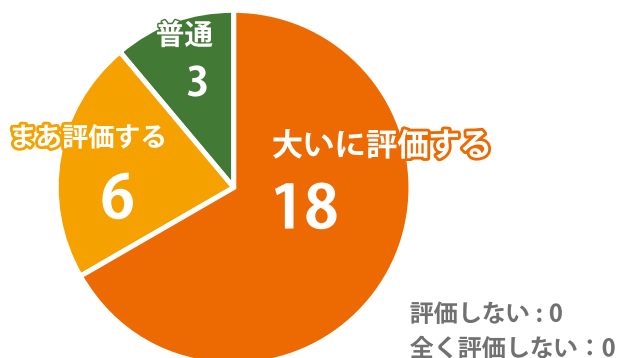
② SDGsのテーマとして「目標16:平和と公正をすべての人に」を選んだ



③チャリティなど支援先として「平和や公正な社会づくりに取り組む団体」を設定した。



④チャリティの目標額を達成した



自由記述

【四者協働により SDGs を推進した】

- ・マッチングをしていただけることは有難いです。
- ・いろんな年代の市民が幅広い仕方で関わることができるイベントであることがすばらしい(協力団体)

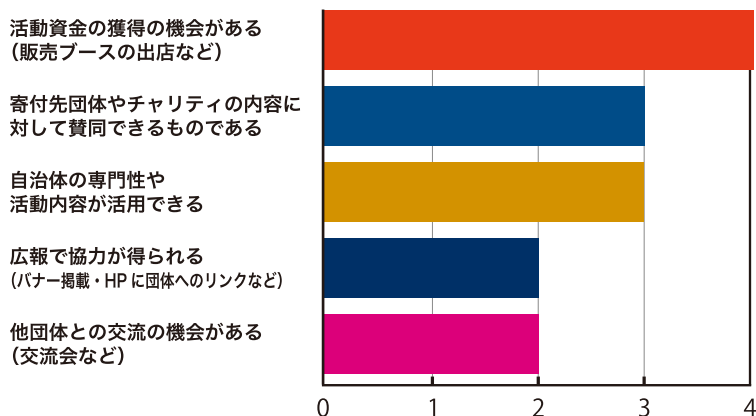
【テーマを「平和と公正を全ての人に」にした】

- ・活動を通して多くの方が平和や公正な社会について学び考える機会をいただいたことは、たいへん素晴らしいことと思います。
- ・「世界情勢が不安な中で、平和の意味を問い直す。また多文化共生を知るきっかけをつくるなどおおいに共感できる(協賛企業)」

5-3. 今後の SDGs や地域貢献において重要なのは「活動資金獲得の機会」

本調査に協力した市民公益活動団体および市民サポーターは、四者協働により地域貢献事業への協力で重要と認識する項目として、「活動資金の獲得の機会がある」が最重要となっている。(図3参照)

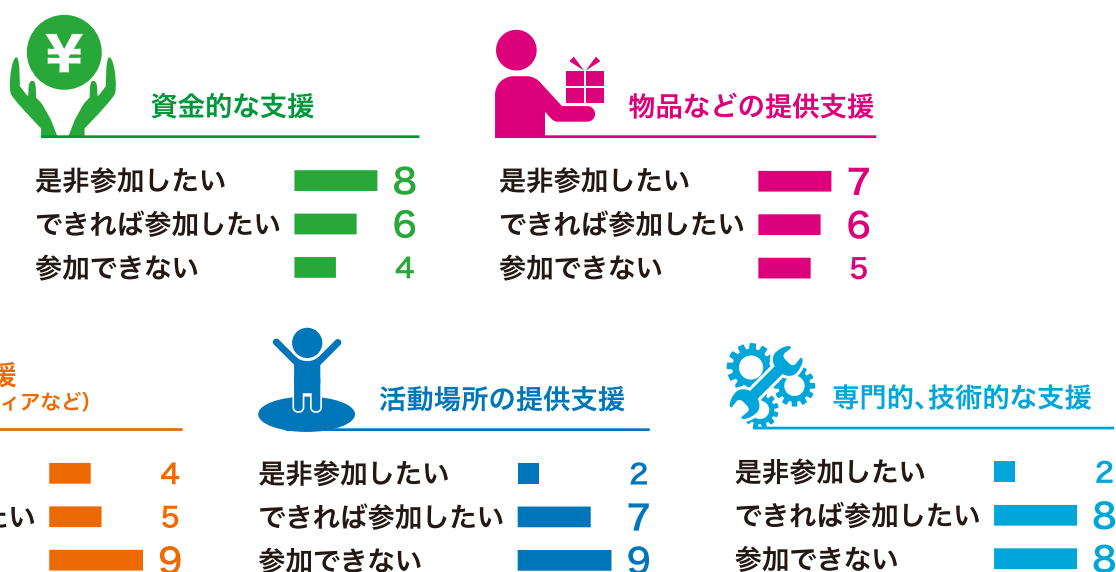
図3 市民公益活動団体および市民サポーターが、四者協働による地域貢献事業への協力で重要と認識する項目



5-4. 企業は四者協働での地域貢献事業では「資金的な支援」を検討したい傾向

本調査に協力した企業において、四者協働による地域貢献事業への参加について、図の5項目について尋ねたところ、「資金的な支援」で8事業所、「物品などの提供支援」で7事業所が参加の意向を示した。

図4 今後の四者協働で貴社・貴団体が参加したいと思う項目について



5-5. 来年度の本事業への参加については 75% の団体や個人、企業が参加の意向

本調査に協力した市民公益活動団体および市民サポーター、協賛企業の13団体（46%）が「ぜひ参加したい」、9団体（32%）が「できれば参加したい」と回答した。自由記述では、【四者協働をつなぐ場としての期待】など、当センターが中間支援として機能を充実させていくことへの期待が寄せられた。



自由記述

【大津市市民活動センターに四者協働を推進してほしい】

・四者協働はつながるからわかること、つながるからできることがあると思うので、それを活かしての取り組みをこれからも継続してほしいと思います。大津市市民活動センターが四者をつなぐ要としての役割を担ってくださっていることに感謝しています。

【プロジェクトについて】

・毎年、目的や目標を明確にして取り組まれている事が素晴らしいと思う。
・益々活動の輪がひろがることを期待します。

アイズ株式会社

代表取締役社長
谷口 彰Social Good
Produce **EINS**

提供する商品・サービスを通じて解決される社会課題・顧客課題の本質と向き合い、企業の持続的な成長・地域の持続的な発展・日々の幸せを実現するため、総合力を持ってソーシャルグッドプロデュース企業へ進化します。

油藤商事株式会社

代表取締役
青山 裕史まちのエコロジーステーション
油藤商事株式会社

SDGs 7 番目の目標「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」の取り組みとして、地域から集めた廃食油をリサイクル燃料「バイオディーゼル」に精製し、それを地域で使っていただく地域内資源循環を推進しています。

株式会社一花

代表取締役
岩上 智佳子Flower produce
ichika
一花

「花育」の地域活動で、自然との関わりや創作の楽しさ、人との繋がりなど感性を豊かに育む機会を創出しています。また、母の日キャンペーンの売上の一部をプロジェクトに寄付することで SDGs の推進につながればと考えています。

株式会社 叶 匠寿庵

代表取締役社長
芝田 冬樹**叶 匠寿庵**

叶 匠寿庵の本社「寿長生の郷（すないのさと）」は、環境省の「自然共生サイト」にも認定され、里山の生物多様性の保全を推進しています。これからも環境や地域社会を考え、課題解決に取り組んでまいります。

黒田紙業株式会社

代表取締役
黒田 軒史— 古紙を大切にするリサイクル産業 —
黒田紙業株式会社

廃棄物の減量と資源の再利用を自らの社会的な使命として、あらゆる古紙を「捨てない・埋めない・燃やさない」のリサイクル 3 ないシステムを推進しています。美しい地球と未来のために一緒にリサイクルを推進していきましょう！

小林事務機株式会社

代表取締役
小林 弘和**小林事務機株式会社**

地域に根ざした「ありがとうカンパニー」として、事業での社会貢献をはじめ、環境ISOやSDGs・MLGsなどの取り組みとしてびわ湖(西の湖)のヨシ刈りやびわ湖地球の森の育樹活動、地域清掃を行っています。

株式会社 滋賀銀行

総合企画部
村田 花穂**SHIGA BANK**

「『三方よし』で地域を幸せにする」というパーパスのもと、地域の課題を解決するポジティブインパクトの創出に取り組んでいます。地域と歩む金融機関として持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

滋賀県信用保証協会

理事長
西嶋 栄治きっかけは、その保証でありたい
滋賀県信用保証協会

当協会は、県内中小企業者の良きパートナーとして、中小企業者の皆さまの課題解決や持続可能性の向上に取り組んでいます。そして、「SDGs」の普及に努め、企業価値向上、持続可能な地域社会の実現に貢献していきます。

学校法人純美禮学園
滋賀短期大学ビジネスコミュニケーション学科
学科長 若生 真理子、江見 和明SHIGA-TAN
Shiga Junior College

滋賀短期大学は、地域社会の発展に貢献できる人材の育成に取り組んでおります。ボランティアや地域イベントへの参加を通じて、地域の皆様から、たくさんのお話を学ばせていただきたいと思います。

株式会社 昭建

代表取締役社長
中村 智DYNAMIC SHOKEN
株式会社 昭建

昭建は「豊かな社会環境の創造に貢献する」の精神のもと、総合建設業や建設資材の製造販売等幅広く事業を展開しています。今後も豊かな水や緑を有する郷土から持続可能な社会の実現に向けて取組み、発信していきます。

生活協同組合 コープ自然派京都



理事長
筆口 智子



消費者が主体的に運営に関わり、生産者と顔の見える関係を築くことにより、農薬や添加物などを避け、生産者の健康、土壌など環境を守り、持続可能な生産、消費を実現しています。

大樹生命保険 株式会社



大津営業部 営業部長
兼第一CS室長 松永 学

大樹生命保険株式会社

当社は生命保険という長期に亘る保障を提供しています。未来永劫、途切れる事なく十分なサービスをお客様に提供し続ける事が当社にとり最も重要なCSRです。これからも当社に関わるステークホルダーに対し責任を果たしてまいります。

正和設計株式会社



代表取締役
田中 英幸



当社は、国民の安心・安全で快適な生活を支える社会資本整備に貢献し、近年頻発する自然災害等から国民を守る防災・減災、国土強靱化計画及び、社会資本の維持管理・更新等の事業に取り組んでいます。

琵琶湖汽船株式会社



代表取締役社長
川添 智史



びわ湖との共生を環境方針に定める当社では、びわ湖環境学習体験クルーズや、鮎ずし作り体験クルーズなどのカルチャークルーズを通じて、びわ湖の環境保全活動および地域の活性化に取り組んでいます。

藤野商事株式会社



代表取締役社長
藤野 滋



淡海エコフオスター制度に登録、月1回清掃活動を実施。205回となりました。またペットボトルキャップ回収を継続。昨年度は1.8トンを回収しました。そのうち1.5トンは県内の小中学校16校が集めていただいたものです。

株式会社 よつ葉ホームデリバリー京滋



代表取締役
光久 健太郎

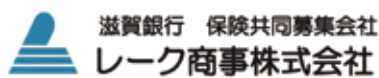


私たちよつ葉は、食は自然の恵み・人も自然の一部という価値観に重きを置き、自然との関わりを大切し、安心して暮らせる社会を求め、その実現に向けて行動します。本事業に参加し、多くの出会いに感謝しております。

レーク商事株式会社



取締役社長
西川 勝之



当社は、滋賀銀行のパートナー企業として環境にやさしい企業活動を展開している保険代理店です。「輝く未来へ、レーク商事にできること」を合言葉に地域社会の課題解決に貢献して参ります。



株式会社 平和堂

当社では地域共創の取組として「食」という観点から地域の人々の健康づくりを考え、持続可能な地域の活性化を目指しています。本事業を通じて、地域活性化の一助となれればと考えています。



謝辞

本事業は、市民、行政、企業、大学の四者協働でSDGsをテーマに地域貢献を進めるものです。2023年度で6年の取り組みとなりました。いつも温かいご支援を下さる市民団体や協賛企業の方からも「地域に根づいて来たね」とお声をいただけるようになりました。多くの方の支援に支えていただき、感謝申し上げます。

世界情勢が不安定になる中で「GOAL16.平和と公正をすべての人に」をテーマとしましたが、このテーマは日本をはじめ、世界中の人々に共通するもので、その重要性・緊急性はますます高まってきています。本事業の取り組みが、その小さな一翼を担うことができれば幸いです。今後ともご指導、ご鞭撻賜りますよう、お願い申し上げます。

2024年 5月 大津市市民活動センター

プロジェクト主催・報告書発行

大津市市民活動センター

〒520-0047 滋賀県大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 1F

TEL 077-527-8661

E-mail moveinfo@movementotsu.com

FAX 077-527-8662

HP <http://movementotsu.com>